



五郎沼通信

第13号 平成28年8月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656 (FAX兼用)
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

五郎沼古代ハス池の管理奮闘記

毎年、私たちは普通に五郎沼古代ハスは咲いてくれると思つてますが、池の北側部分が昨年、遅く咲いており、今年は、昨年に増してもっと遅く咲きだすのではないかと4月の蓮池整備している



古代ハス池の北側は最初は本年もまばらでした

時より心配してました。蓮池の水は五郎沼からパイプで注がれてますが、直径が小さくゴミが詰まり水が滞る時があります。また、池全体の水の流れる方が悪いからと話しがあり、蓮池の水流も注意して見ていました。

ハスが水面に出てくる前に増えると光合成を妨げるアオコ(※裏面参照)が一つの原因だとも思い、日詰駅前の土壌改良専門の河野氏のお世話でアオコが薄くなる資材を撒きました。

情報

琵琶湖の群生地ハスが消えた？

滋賀県琵琶湖の烏丸半島付近のハスの群生地では今年、ほとんど姿を消すのは初めてとの事です。

原因についてミドリガメや渡り鳥のオオバンなどによる食害の可能性を予想しましたが、湖底にあるハスの地下茎など採取したサンプルからは明確な食害の痕は確認できず、大幅減少の主

因とは考えにくいとい事です。水面に向かって茎を伸ばしながらも葉が水面に出ていなかった地下茎には斑点が確認されたものがあり、市職員は「ハスの生命力が弱って日和見菌(※裏面参照)の影響が出たのではないかと推測しています。斑点がなぜできたのかは現時点では不明との事です。



琵琶湖烏丸半島のハス群生地



3年前にザリガニで極端にハスが少なくなった光円寺

でした。そこで、心配になり、光円寺にどうされたか確認に、尋ねました。住職さんから単純に「3年前にザリガニは釣って減らしたところ、現在は復活」とのことでしたので、早速、五郎沼古代ハ

本年も「駅からハイキング」開催

本年も7月9日～18日の10日間にかけ、昨年同様コースにて五郎沼「比爪」の地を巡るJR「駅からハイキング」が開催されました。結果も下表通りで、ほぼ昨年並でした。関係者の皆さんは大変ご苦労様でした。



日詰駅前のスタートテント案内所

地域別来訪者数		内容(多い順)
関東	18	東京11・神奈川3・埼玉3・千葉1
東北	19	山形9・秋田3・青森3・福島2・宮城2
岩手	72	盛岡8・奥州7・滝沢5・北上3・一関2 矢巾1・紫波46
計	109	前回(2015年)比 ▲7名



ス池でも、スルメであつとやう間に、バケツいっぱいザリガニが釣れました。

その後日々、池の北側を見ていましたら、大丈夫、徐々にハスは今年も元気に咲いてくれました。また、池に注ぐ水口が北側であり、どうしても水温が低く生育が遅くなる当たり前の事がわかりました。ただ、アブラムシ(※裏面参照)被害は多少出てしまいい残念でした。



池の北側は遅れて古代ハスでいっぱいです

古代ハスの天敵！

アオコとザリガニとアブラムシと日和見菌



◎アオコ……

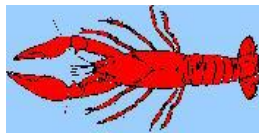
富栄養化が進んだ湖沼等において微細藻類（主に浮遊性藍藻）が大発生し水面

を覆い尽くすほどになった状態、およびその藻類を指します。粒子状の藻体がただよって水面に青緑色の粉をまいたように見えることから、「青粉（あおこ）」と呼ばれるようになったと考えられます。

アオコが発生すると様々な不都合が生じます。湖沼周辺の生態系など自然環境を損なうおそれも高いです。また、アオコの死がい腐るときには、水中の酸素をたくさん使うので、魚などの生き物が、酸素不足で死んでしまうことがあります。

実は、アオコの発生は、人間の暮らしが原因だといわれています。生活排水・肥料などにふくまれる、チッ素やリンという物質が、川から湖や沼に流れこみ、水中の植物プランクトンたちのよい栄養になって、アオコが大発生するのです。

◎ザリガニ……



1930年にアメリカから鎌倉市岩瀬に移入されたものが、土着して広がったとされています。本州以北にはないらしいです。

体長10cmくらい。湖、沼、池、田圃などに穴を掘って生息し、水田においては稲の苗をちよんぎる、畦に穴をあけるなどを悪さをするため、害虫(?)の扱いを受けて、農家はその駆除に難渋しています。小さい頃、これを釣って遊んだ人は多いと思います。

もともと、食用として移入されたものであり、美味だといわれています。フランス料理のスープの材料などに利用するため、近年になって手賀沼（千葉県）界隈で養殖に乗り出し、財をなした人がいるという噂を聞きました。

◎アブラムシ……

アブラムシ(油虫)はカメムシ目のアブラムシ上科に属する昆虫



の総称です。アリマキとも呼びます。

植物の上でほとんど移動せず、集団で維管束に口針を突き刺して師管液を吸って生活しています。小型で弱々しい昆虫と言われます。アリと共生し、分泌物



古代ハスについて アブラムシ

を与えるかわりに天敵から守ってもらう習性や、単為生殖によっても増え真社会性を持つことなどから、生態や進化の研究のモデル昆虫ともなっているようです。

◎日和見菌（ひよりみきん）……

日和見（ひよりみ）というのは、「有利なほうにつくこと、形勢をうかがうこと」という意味ですが、そんな言葉がついた菌なので「善玉菌にも悪玉菌にも当てはまらないけど、強い方につきます」という面倒な菌なのです。

琵琶湖の蓮がミドリカメ等の食害にあい体力が落ち、日和見菌も悪玉菌側になり、ますます蓮が弱くなってしまったと考えられます。

人間の体内の菌の考え方も同じです。

奥州藤原氏一族系図



これまで、赤石小学校から国道4号まで、五郎沼の北側に奥州藤原氏の拠点である館

があります。これら結果から、五郎沼が築堤された頃、つまり平安時代末期、平氏と源氏が覇権を競っていた時代。ここ比爪はどのような風景が広がり、人々はどうの生活していたのか、想像してみたいと思います。なお、比爪藤原氏を樋爪氏とも表記しますが、ここでは、奥州藤原氏の一族ということで、比爪藤原氏とします。

次回からこのようなことについて詳しく話したいと思いません。(石幡談)

最近、紫波町汚泥再生処理センターの建設による大銀遺跡の発掘調査や、沿岸地域の災害復旧に伴う発掘調査の結果、また、岩手県立博物館が実施した五郎沼周辺の精密測量結果などからいろいろなことがわかってきました。これら結果から、五郎沼が築堤された頃、つまり平安時代末期、平氏と源氏が覇権を競っていた時代。ここ比爪はどのような風景が広がり、人々はどうの生活していたのか、想像してみたいと思います。なお、比爪藤原氏を樋爪氏とも表記しますが、ここでは、奥州藤原氏の一族ということで、比爪藤原氏とします。

五郎沼が築堤された頃・比爪藤原氏の時代



昨年2月号でも紹介しました小路口・大銀地区の想像図(羽柴氏)

～ 編集後記 ～
正式には本年度中に教育委員会が2年分関連づけてまとめるとの事ですが、「大銀II遺跡」から想像されることは、西側の「比爪館」同等の位の方のお屋敷があり、平泉の「柳之御所遺跡」と匹敵するかもと思うとワクワクです。



昨年発掘された「大銀II遺跡」の居住柱



本年に発掘された「大銀II遺跡」の居住柱群